

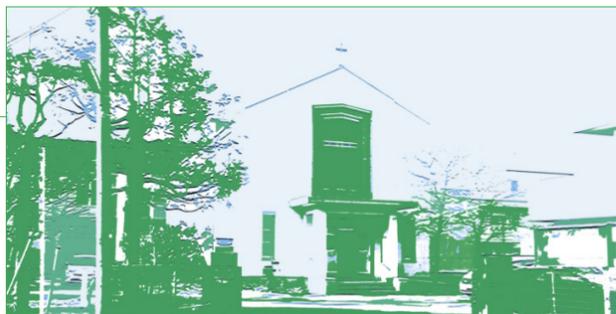


瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am（「朝の祈り」に続いて）
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



神さまのところへと戻って行く

小西 広志 神父

先月、わたしたちの信仰共同体では洗礼式が行われました。小さな子どもから青年、そして大人の方々が洗礼の秘跡を受けて、神さまの子ども（神の子）にさせていただきましたし、わたしたちの小さな信仰共同体の一員となりました。幼児洗礼で、生まれた時の緊急洗礼でもあったわたしは洗礼式で信仰を表明するという体験がないので、皆さんがどんなお気持ちで洗礼をお受けになったのか、あるいは小さなお子さんの洗礼であれば、ご家族の方々がどんな願いをこめて洗礼式に臨んだのかは想像するしかありません。しかし、洗礼式の後の集合写真を拝見させていただくと、どの方々もすがすがしい表情で笑顔をお見せになっておられるところから、この洗礼式はお一人おひとりの人生の中で貴重な体験になったのだらうと推察します。

ところで、一人の人間が神さまからのうながしを受けて洗礼を決断するのは並大抵のことではありません。人生の中の大きな転換点といえるでしょう。人は神さまによって造られました。聖書にあるアダムとエヴァのことではありません。あなたもわたしも神さまによって造られ、神さまからのいのちをいただいたのです。いただきたいのちを人は生きます。よく生きられるときもあれば、どうもうまく生きられない時もある。いのちを十二分に生かして生きる時もある、いのちを少し無駄にしている時もある。それでも人は、いただきたいのちを生きていくのです。そして、いのちの源である神さまのところへと向かって生きていきます。生きることは父である神さまです。人は父のふところから出て、父のふところへと帰っていくのです。人生とは「父から父へ」の旅路です。聖フランシスコは「あなた方はこの世にあっては寄留者のようにありなさい」と勧めました。人間はこの地上にあって旅人として生きるのです。ある人は同伴者を得て、家族と共にこの旅路を歩むでしょう。ある人は独身でありながらも、多くの人々に支えられながら歩むのです。

多くの人々はこの事実が気がつきません。いえ、少しボンヤリとは気がついているかもしれませんが、しかし、ご自分がどこに向かっているのかを分からないまま時を過ごしているかもしれません。しかし、わたしたちキリスト信者は違います。神さまからの呼びかけ、うながしのおかげで洗礼を受けたのですから、呼びかけの方の方へと向かって歩いていくのです。

回心ということばがあります。一言でいえば、神さまの方へと向きを変えて歩み始めることが回心です。回心の始まりは、心の奥でささやきかける神さまの声に耳を傾けることです。それは、少しつらい体験かもしれません。突然、神さまは呼びかけるからです。呼びかけにふさわしくない自分自身がいると思えば、この声を振り切ろうとするでしょう。振り切っても振り切っても、聞こえないふりをしても、神さまは様々な出来事を通じてその人に呼びかけます。呼びかけられた人はある日ある時、ハッと気がつきます。それが回心の具体的な第一歩です。

ある方が「神父さん、洗礼を受けた時は『俺は洗礼を受けてやったんだ』という気持ちだったけど、だんだん分かってきたよ、『洗礼を受けさせてもらったんだ』という事実」と話してくれました。回心は人間側の具体的な行動（ここでは洗礼）と神さまの側からの無償の働きかけから成り立つのです。神に気づき、神にたち帰ることが回心ですが、それは一回限りのものではありません。洗礼という大きな回心を経た後にも、何度も何度も回心を重ねていきます。

聖体の秘跡（ミサ）は人を回心へと誘うものです。ミサの始まる前の自分とミサが終わった後の自分とは大きく変わっています。ミサ後、どの方も喜んで聖堂を後にする姿を見るにつけ、ミサの中で、そしてご聖体をお受けになることでこのころのありようが変わったのだらうと想像します。ミサ後も感謝の祈りをささげるために静かにするべきだと主張なさる神父さんたちもいらっしゃいますが、むしろミサの中で変えられていったことをお互い喜び合うために笑顔でことばを交わす方が、もっと信仰共同体らしいと思います。

ところで、こういった日常の絶えざる回心は、いつも痛みと苦しみを伴います。なぜなら、回心をするためには今の自分自身に気がつかなければならないからです。人を傷つけ、自分も傷つき、人を愛せず、自分自身も大切にできないという人間の弱さに気がつかなければならないからです。自分自身を見つめることです。これはとても大変です。つらいです。しかも、回心した後に生き方を少し変えなければならないからです。これはもっとつらいです。自分の胸を打って自分の惨めさを認め、悔いて、しかも少し生き方を変えていく。これが回心の具体的な過程です。かつては回心のことを「痛悔」とか「悔悛」と呼んだのはそのためです。

洗礼の秘跡、聖体の秘跡と二つの回心の場面についてお話ししてきました。三つ目はゆるしの秘跡です。しかし、これについては日を改めてお話ししましょう。

「人生は秘跡的です」ここでいう秘跡とは教会の七つの秘跡の意味ではありません。神秘という意味です。人生のありとあらゆる場面で父なる神さまはイエスさまを通じて、わたしたちに呼びかけてきます。その意味で人生は神さまとの関わり合いです。いつも、神さまはわたしたちの生の中で関わってくださいます。まさに人生は神秘であり、秘跡的なのです。

回心と聞くとわたしたちはこころが重くなってしまいがちです。生活を改めることだと考えるからです。確かに、回心の結果、生活が改まっていきます。しかし、回心でもっと大切なのは、「古い自分に死んで、新しい自分を生きていく」ことです。イエスさまは十字架での受難と死、そして三日目の復活といういのちの神秘を生きられました（これを過越の秘義と呼びます）。おなじように回心で、洗礼と聖体、そしてゆるしの秘跡を通じて、いのちの再生の神秘を生きるのです。こうしてキリスト信者は、救い主キリストのいのちの中に組み入れられていくのです。

洗礼を受けられた方々、おめでとうございます。あなた方が洗礼の秘跡でいただきたいのちの神秘を、わたしたち瀬田教会の皆さんと一緒に生きることが出来ますように。御父のふところを目指すいのちの歩みを共に進んでいきましょう。